

神楽通信

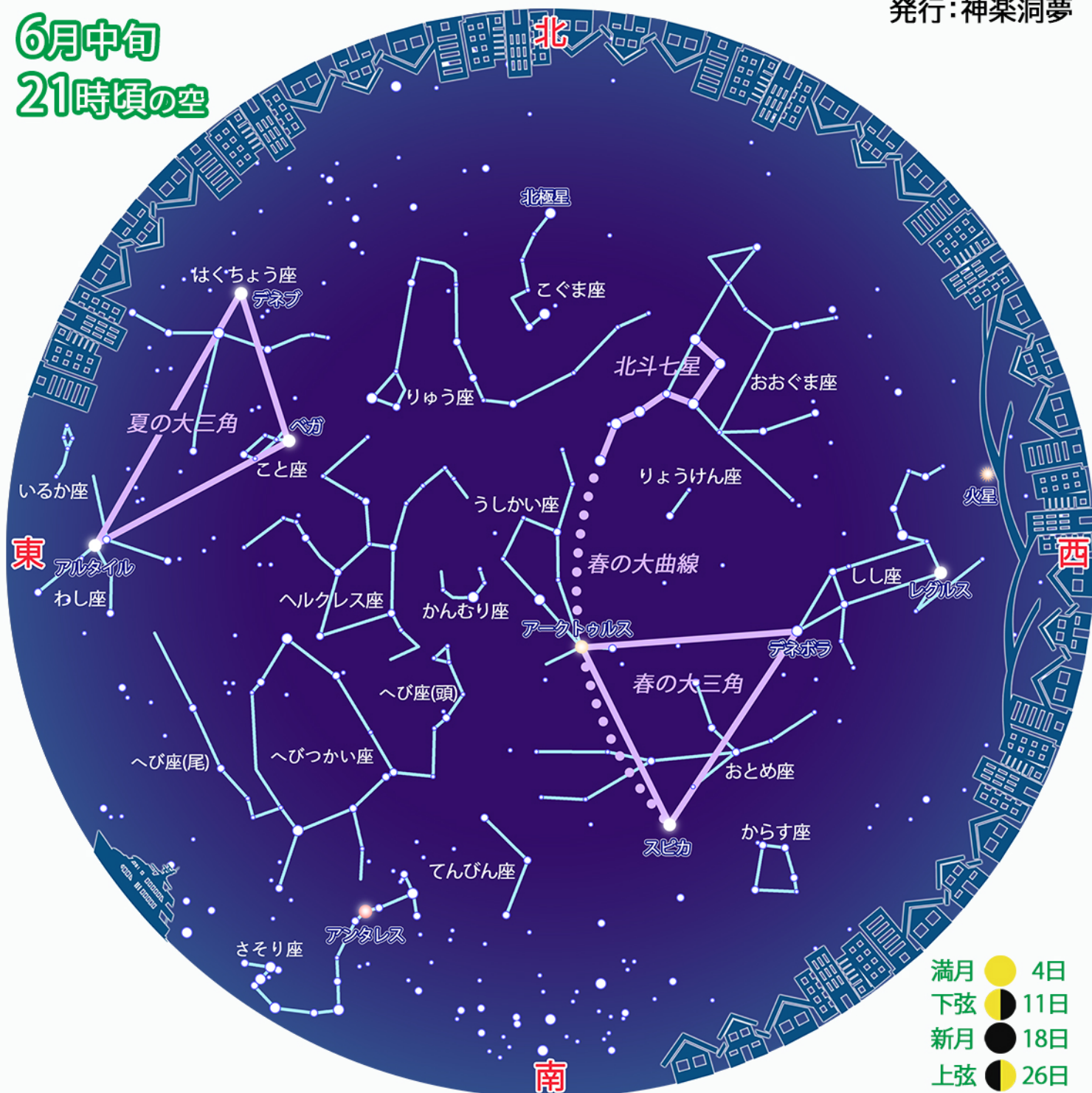
No.88

2023年

6月号

発行:神楽洞夢

6月中旬
21時頃の空



6月は21日が夏至なので、1年のうちでもっとも日暮れが遅く、日の出の早い状態がしばらく続くことになります。さらに、11日が入梅のため、晴れ間の少ない日が7月下旬の梅雨明けごろまで続きます。わずかな晴れ間、スターウォッチングのチャンスを逃したくないところです。そんな6月の星空では、季節の変わり目らしく、春の星座と夏の星座の両方を楽しむことができます。晴れた日には外に出て、星空を楽しんでみてはいかがでしょうか。

似た等級と異なる色の1等星

6月の星空で目立つ1等星が二つあります。
ひとつは、南の空高くに輝く、うしかい座のアークトゥルス。日本で見ることのできる星のなかで、3番目に明るい星でもあります。
アークトゥルスは、麦の刈入れの時期に空の高いところに見えるので、「麦星」と呼ばれています。
アークトゥルスの実視等級は-0.04等です。

もうひとつは、東の空少し低いところに輝く、こと座のベガです。日本で見ることのできる星の中では、アークトゥルスに次ぐ明るさを誇っています。
夏の大三角の一角をなし、七夕伝説の「織姫星」としても有名な星です。
ベガの実視等級は0.03等です。

どちらも明るい1等星とされていますが、正確には1等級よりも明るい0等級に分類されています。

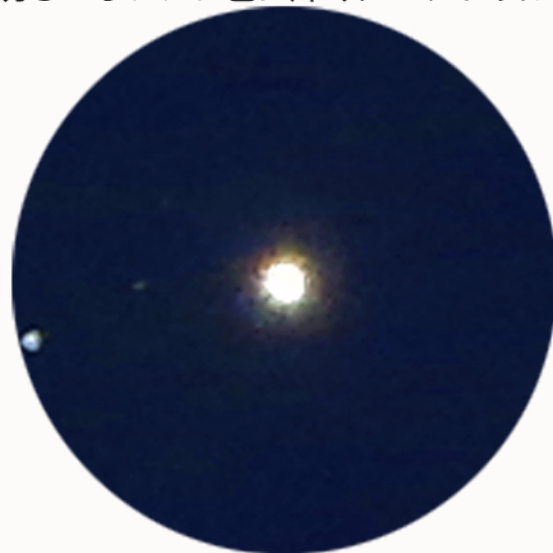
似たような等級のアークトゥルスとベガですが、実際の夜空で観察してみると、輝く色が違います。

星の色の違いは、表面温度が関係しており、表面温度が高い順に、青→白→黄→橙→赤と色が異なります。

アークトゥルスの表面温度はおよそ4000度で、太陽より低いため、黄色から明るいオレンジ色に輝いて見えます。一方のベガの表面温度は、太陽よりはるかに高い10000度ほどで、白く輝いています。

アークトゥルスの方が表面温度が低いにもかかわらず、ベガと同じように明るく輝いて見えるのは、アークトゥルスが非常に巨大な「赤色巨星」だからです。

明るいオレンジ色に輝くアークトゥルス



白く輝くベガ

